

障害者団体への J I S 図記号と I S O 図記号とのアンケート調査について

● 依頼内容

一般向けに実施したアンケート調査と同様の内容（Web による、
90 項目 180 図記号の比較調査及び視認性調査）

● 依頼した団体

- ①日本発達障害ネットワーク → 主に発達障害をお持ちの方
- ②DPI 日本会議 → 肢体不自由のある方など（限定せず）
- ③全日本ろうあ連盟、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
→ 主に聴覚障害の方
- ④全国手をつなぐ育成会連合会 → 主に知的障害の方

● 調査期間

平成 28 年 11 月 21 日（月）～ 12 月 23 日（金）

● 目標とした回答数

今回は、合計 90 個の図記号を 30 個ずつ 3 つの系統に分け、一人当たり 30 個の図記号を見てもらう仕様とした。統計的処理を行うには、一つの図記号あたり 30 回答がほしいので、1 グループ（団体）あたり 30 人 × 3 系統で 90 名、これを 4 つのグループで実施するので、90 名 × 4 グループで合計 360 人からの回答を集めることを目標とした。

● 回収した回答数

途中で辞めてしまった回答者も含めて、合計 121 名に参加いただけた。ただし、いずれの団体も目標には達しなかったため、P 値や有意差については参考としてみることにする。詳細は別紙 1 を参照。

● 分析の結果

別紙 2 のグラフの通り、障害者団体にご協力いただいた結果は、前に実施した一般の日本人の傾向とほぼ同じ結果となった。そのため、この調査結果を別途検討することはせず、一般の調査結果の参考として検討を進めることが適切。